

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 18 号 〇●〇

平成 25 年 4 月

発行：教育企画課・教育指導課

「ねりま小中一貫教育レポート」は、小中一貫教育の取組を全小・中学校で共有するため、随時発行しています。練馬区ホームページでも公開しています。

平成 25 年 4 月 22 日、小中一貫教育研究グループ（6 組 16 校）と小中一貫教育実践校（10 組 23 校）が集まる小中一貫教育研究グループ等連絡会を開催しました。

第 18 号では、小中一貫教育研究グループと実践校に関する教育委員会の考え方と、小中一貫教育に関する堀田教育指導課長からのメッセージを紹介します。

◆小中一貫教育研究グループと小中一貫教育実践校の違いは？

小中一貫教育研究グループは、練馬区教育委員会が指定する小・中学校のグループです。平成 23・24 年度に 10 グループ 22 校（当初の名称は、小中一貫・連携教育研究グループ）、25・26 年度に 6 グループ 16 校が指定されています。

研究グループでは、9 年間を見通した教育活動を充実させるための研究を行います。具体的には、小・中学校の教員が協力して、9 年間を見通した「課題改善カリキュラム」を 2 教科以上の教科において作成したり、ノート指導や板書指導などの指導方法に一貫性をもたせたりする研究です。

研究グループは、2 年間の研究期間が終了すると小中一貫教育実践校に移行します。移行の際、同じ中学校区で研究グループに入っていない小学校が新たに参加する場合があります。25 年度は、八坂中・八坂小グループに豊溪小が新たに参加しました。

実践校では、研究グループで作成した「課題改善カリキュラム」を実践し、カリキュラムの検証や改善を行います。また、新たな教科で「課題改善カリキュラム」を作成する場合があります。

同じ中学校区で研究グループや実践校に入っていない小学校は、小中一貫教育連携校として、研究協議会などで意見交換をしたり、「課題改善カリキュラム」の視点や考え方を活かしたり

25・26 年度小中一貫教育研究グループ

- ① 豊玉中・豊玉小・豊玉南小
- ② 中村中・中村小・中村西小
- ③ 開進第二中・南町小・向山小
- ④ 田柄中・田柄小・田柄第二小
- ⑤ 南が丘中・南が丘小
- ⑥ 大泉中・大泉小

25 年度小中一貫教育実践校

- ① 旭丘中・旭丘小・小竹小
- ② 豊玉第二中・豊玉第二小・豊玉東小
- ③ 練馬中・春日小（練馬小・高松小）
- ④ 豊溪中・旭町小
- ⑤ 光が丘第一中・光が丘四季の香小
- ⑥ 光が丘第三中・光が丘春の風小
- ⑦ 石神井南中・下石神井小
- ⑧ 上石神井中・上石神井小
- ⑨ 三原台中・泉新小（光和小・橋戸小）
- ⑩ 八坂中・八坂小・豊溪小

※()は連携校

して研究成果を共有していきます。

◆ねりまの小中一貫教育

小中一貫教育を行う学校というと、大泉桜学園のように小・中学校が同じ敷地にある学校や、小・中学校が別々の場所にあったとしても、その小学校から全員が同じ中学校に進学するような小・中学校を思い浮かべる方が多いと思います。

「練馬区小中一貫教育推進方策」（平成24年2月）では、「施設が離れている小中学校が連携・協力して、義務教育9年間を見通した教育課程のもとで実施する教育活動」についても「小中一貫教育」と呼ぶこととしています。

国の中央教育審議会の作業部会では、小中連携を「小・中学校が互いに情報交換、交流することを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育」、小中一貫教育は「小中連携のうち、小・中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育」と捉えています。

練馬区においては、従前から行われている部活動体験や授業体験など、児童・生徒の交流を中心とした「小中連携」に加えて、9年間を見通した教科カリキュラムの作成など学習指導上の連携を進めていくことを「小中一貫教育」と呼ぶことにしています。

そのため練馬区としては、小中一貫教育を行う学校として、「小中一貫教育校大泉桜学園」「小中一貫教育研究グループ」「小中一貫教育実践校・連携校」が並立していることとなります。

◆堀田教育指導課長からのメッセージ

小中一貫教育を進めるにあたって、次の三つを意識して欲しいと思います。

一つめは「人」について。子供同士の交流があり、教員同士の交流があります。小・中学校の教員が、互いに顔と名前が一致し、中学校であれば担当教科、小学校であれば担当学年がわかるぐらい、顔見知りになってほしいのです。そして、子供と教員の交流として、出前授業など、小学生と中学校教員、中学生と小学校教員の交流も進めていただきたいと思います。

二つめは「もの」。カリキュラム、ノート、板書などの「もの」です。子供たちの実態を把握し、情報連携し、改善のための方策を講じて、一貫したカリキュラムを作成する。ノートや板書に着目する。小中一貫教育で何をして、子供たちがどう変わってきたのか、ホームページや学校だよりなどの「もの」で紹介していただくことも大切です。

三つめは「こと」。できることからやっていく。あれもこれもとやると焦点がぼけてしまいます。中学校を卒業する時にどう育ってほしいのか、9年間のゴールから考えて、子供たちにとってよいこと、できることから取り組んでください。

小中一貫教育で本当に子供が変わります。学習面、生活面、心理面での不安解消につながります。「ひと」「もの」「こと」で小中一貫教育を進めていただきたいと思います。